

4段階評価	4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する
-------	---

学校経営ビジョン	「夢や希望をもち、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～「学びたい」子ども「学ばせたい」学校・家庭・地域の集う学校づくり～ 【テーマ わたしが主役！すきっ子ハッピー物語】
----------	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	委員評価	学校運営協議会委員のコメント
知育	<p>重点目標： 基礎・基本を身に付け、主体的に学ぶ児童の育成 手段</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基本的学習習慣の徹底 2 宅習ノートを活用した学びのサイクル作りの推進 3 タブレットを活用し、児童の学習意欲と活用技能の定着を図る 4 絵本100冊運動の実施と、読書を活用した学力向上の取組の推進 5 一人1授業の実施、授業論文の応募等を通じた授業力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方グリップを活用させることで、少しずつ正しい持ち方のできる児童が増えてきた。あと1名であるが、全員が正しい持ち方できるように、継続して支援を行ってきたい。また、状況については、保護者の方に、学級通信等でお知らせすることも大切である。 ・昨年度と比較すると、教師の評価が0.2ポイント、保護者の評価が0.8ポイント低くなっている。指導方法の工夫・改善が必要である。 ・立腰指導については、集会、授業開始時に繰り返し取り組ませることで、良い姿勢が定着しつつある。 ・家庭学習の4つの決まり、6つの約束を宅習ノートに貼らせたり、よい宅習をコピーし児童玄関の壁に掲示したりすることで改善を図ってきた。しかしながら、個別指導を要する児童もあり、昼休みや放課後に個別指導を行ってきた。今後は、家庭とも連携をして内容の改善を図ってきたい。 ・タブレットを活用するに当たり、家庭学習で使用できるソフト等が十分ではなかった。自宅学習で使用できるソフト等を充実させることで、学力の向上を図ってきたい。 ・自宅における動画視聴の時間が多すぎることで、ネットゲームでのトラブルといったメディアの利用上の課題も見えてきた。次年度以降も学校保健委員会等の実施や保健だより等で情報を発信していくことで、家庭と協力して正しい利用ができるように指導してきたい。 ・今年度は、教師の授業におけるタブレット活用に関する研究を行ってきた。更に効果的な活用方法について研修を深めていく必要がある。 ・実際にノートに書くことも大切なことであり、ノートの書き方指導とタブレット活用とのバランスをとっていく必要がある。 ・読書旬間における教師や委員会の児童による読み聞かせ、代表児童による本の紹介、多読賞表彰などの取組により、本を読む児童は増えた。 ・図書室の利用状況や読書量には、個人差がある。全校児童の読書の状況を把握し、表彰などの手立てを講じていきたい。 ・あすなる会の方の御協力により、読み聞かせは充実していた。（児童も楽しみにしていた。） ・電子図書館を導入したが、本の貸出冊数は減っていない。更に読書量が増えるように時間設定等を行ってきたい。 ・一人1授業は、全員が実施し、それぞれの授業に対しての意見や感想を述べあうことで改善を図った。授業論文には、2名が応募し授業力の向上を図った。来年度以降も継続していくことで、全教員の授業力が向上するようにしていきたい。 ・今後は、タブレット等の活用も含めて、子供達の学力が向上するための活用技術の獲得に向けて、更なる努力を行ってきたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方と併用して、書く時の正しい姿勢を教えることが必要だと思う。 ・鉛筆の持ち方は癖が強く、習慣づくと正しく持つことが大変になりますが、先生達のご苦勞に感謝します。これからも御指導をお願いします。 ・学力の向上、その他の学習の向上は先生と児童の信頼関係から生まれると思う。その子の良いところを褒め、「先生のために頑張るぞ。」のやる気を引き出す手法も必要ではないかと思う。 ・タブレットを使う学習やオンライン授業の導入等、教育の形態も変化してきている。しかし、読書、書くことの習慣は重要である。家庭でのタブレットを使用した勉強は、視力の低下、ゲーム等に集中し、読書、勉強には逆効果では。家庭での規制強化が不可欠である。 ・一人一台のタブレット等の活用で、子供達の学力向上に期待します。 ・学力向上のため、あらゆる手段や対策を講じられておられる先生方の並々ならぬ努力は、授業参観、取組、校内掲示の工夫を見れば十分評価できる。 ・学校、家庭でお互いが努力されているが、スマートフォン等の子供の使用時間が多くなってきているのではないだろうか。
徳育	<p>重点目標： ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 いじめ認知の向上 2 学校に行くのは楽しいと感じる児童の育成 3 社会の問題や出来事に関心をもち児童の育成 4 須木を愛し夢をもつ児童の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを毎月実施し、気になる点がある児童については、聞き取りを行い、早期に対応してきた。認知件数は向上している。 ・家庭に対してもアンケートの実施や個人面談を実施し、困り感の把握とその支援を行った。今後も更なる支援に努めたい。 ・今後は、いじめが起こらない環境作りのために、確実な見届けや教師間、家庭との連携の更なる強化に努めたい。 ・アンケートや相談の実施状況、子供達の状況などの学校での取組を全家庭に伝えていく活動も必要である。 ・昨年度に引き続き、年2回の人権学習の実施、教育相談の実施、廊下には児童の将来の夢を書いたものを掲示することを行った。 ・将来の夢を確かなものにしていくために、学習することが大切であるということを実感できるように、キャリア教育を今後も推進していきたい。また、須木の発展のために頑張りたいと思う児童の育成に努めていきたい。 ・5年生の総合的な学習の時間に、須木で働く方々へのインタビューを行い、動画としてまとめる作業を行っている。 ・保護者の方から、まだまだ地域の人を交えた行事をしてもよいという意見をいただいた。コロナウイルス感染拡大防止のために、行事等への参加を保護者の方や親族等に限定したことが原因ではないかと考える。コロナウイルスの感染状況を確認しながら、地域の方々を招いて行事を実施していきたい。 ・授業で作成した作品を、宮日新聞に積極的に応募し、宮日こども新聞の記事をお昼の放送で読む活動も行った。継続していきたい。 ・今年度、総合的な学習の時間の年間計画を改善し、系統的に須木について学ぶことができるようにした。 ・地域の祭り(ほぜ祭り)にも多くの児童が参加するように呼びかけた。実際に多くの児童が祭りに参加した。 ・低学年の生活科の学習において、まちたんけんとして、地域内にある事業所や官公庁を見学し、須木で働く人に関する学習を行った。 ・朝の清掃など、自主的にボランティア活動を行う児童がいる。更に多くの児童に広げられるように呼びかけ等を行ってきたい。 ・須木について学ぶ職員研修を夏に行った。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめによる自殺、不登校、人間不信等が、全国的な重要課題となっている。 ・優しさ、楽しさ、尊敬、人の喜び、悲しみが分かる環境からいじめは発生しない。いじめについて、子供達で話し合う機会を増やすことも重要と思える。 ・特に、コロナ禍における家庭環境、社会環境、子供環境、ゆとりのない日常生活からくるストレスが、子供には大きく左右する。 ・先生、保護者、地域住民の協力体制で、豊かな心をもつ子供を育てることができ、郷土愛をもつ子供に育つことにつながるのではないかと思う。 ・須木の歴史、地域との交流等、地域を見て回り、話を聞き、須木を知る体験教育は、郷土愛を育む効果的な取組であり、評価できる。 ・コロナ禍で各地区行事に参加ができない分、諸先生方の学校での努力が大いに見られます。 ・コロナウイルス感染拡大防止のために、ほとんど学校の様子が分かりませんが、先生達の工夫は、よく分かります。 ・ほぜ祭りでは、元気な子供達が見られてよかったです。
体育	<p>重点目標： 健康的な生活を過ごそうとする児童の育成 手段：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康な体作り、規則正しい生活習慣作り 2 体育の授業の充実 3 運動に親しむ児童の育成 4 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月16日(木)現在で、全員登校が75日達成できている。(昨年度は、1月25日現在で50日であった。) ・連続して欠席した児童には、電話連絡や家庭訪問を行い、学校の様子を知らせるなどの対応を行った。 ・保健関係で気になることについては、保健だより等を通じて、保護者にお知らせするようにした。 ・体力テストの結果を全国と比較すると、握力や柔軟性に課題が見られた。体育の授業や日々の遊びなどを通じて改善を図ってきたい。 ・11月に、長距離走大会に向けての練習を行い、大会も実施した。多くの児童の記録が向上した。 ・体育の授業は、水泳も含めて感染症対策を行いながら計画的に実施してきた。 ・タブレットの活用が少なかった。体力や技術の向上につながる効果的な活用方法について研究を深めていきたい。 ・昼休みは、外で遊んでいる児童も多く、一輪車や竹馬などの遊具を使用している児童も多かった。 ・朝は、ボランティア活動を行っている児童はいるが、外遊びを行っている児童はいなかった。適した季節に、外で遊ぶことを勧めていきたい。 ・児童に「キバツ10カード」を配付したが、その活用状況に対する見届けができていない。見届けまで確実に行ってきたい。 ・保体委員会の児童と連携し、正しい方法で歯磨きができるようになるための取組を行ってきた。 ・検診の結果を使用して、参観日の学校保健委員会を受診の呼びかけを行った。また、保健だよりや学級通信を活用して、長期休業などの期間を利用した治療の呼びかけを行った。 ・あと4名が歯の治療が終わっていない。継続して家庭にも協力の呼びかけを行っていく。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・外遊びの中で、楽しみながら自然に体を鍛えることが、心身共に健康な体力づくりにも有効であると思う。 ・昔と違って、今の子供達はあまりにも学ぶことが多く、健康な体力づくりを理解できる環境には無いように思える。タブレットは有効である。 ・体育の授業、遊具を使った外遊び、ボランティア活動、タブレットを使った授業等、先生方の工夫と苦勞は、大いに評価できる。 ・外部の有名選手を招いて講演等の授業を行うことも有効かも知れない。 ・タブレットの効果が大きいのではないかと思います。 ・「キバツ10カード」の効力は、いかがでしょうか。 ・長距離走大会には、母親はもちろん、父親の協力もあり、盛大に行われてよかったです。
食育	<p>重点目標： 望ましい食習慣を身に付けた児童の育成 手段：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食に対する指導の充実、食育の推進 2 年間2回の弁当の日の実施と感謝集会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、昨年度まで行っていた「eデー」を実施していない。また、感染症拡大防止の観点から、ふれあい給食も行っていない。残食0を達成させることや食事のマナー向上のために、再開をしたい。 ・夜遅くまでゲーム・動画視聴をすることで、食生活も乱れてきている事について、保護者の方への啓発活動を行ってきたい。 ・給食感謝集会は、1月に実施できた。食に対する感謝の気持ちをもち、食を大切にできる子供たちを育てていきたい。 ・全学年で食育の授業を実施することで、自分で食事のバランスを考えられる児童を育成したい。 ・今年度は、第1回弁当の日を8月に実施した。第2回弁当の日は、3月の遠足の日に実施する予定である。 ・弁当の日ではなくても、弁当が必要な時には、手伝っている児童が多くなってきた。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・朝、昼、夜の規則正しい食習慣ができていない。食事時のテレビやゲーム、夜遅くまでの動画鑑賞等、家庭環境が大きく左右すると思う。 ・子供の健康は親が管理することが基本であり、食事のマナー、バランス等、家庭環境が欠かせない。 ・米、野菜、肉など、全ての食べ物は命をもって生きている。その命をいただくことに感謝し、好き嫌い無く、何でも美味しくいただく指導が必要である。 ・全ての子供が食に集中し、楽しんで食事をする環境づくりに工夫を凝らした取組を行っている点が評価できる。 ・朝食の必要性と弁当の大切さを教えてください。 ・弁当作りは、楽しく食育が身に付くと思います。続けて欲しいと思います。
次年度の方向性についての校長所見	<p>本校の課題である、児童一人一人に主体性をもたせ、自己肯定感を高めていくための教育活動が、実を結びつつあると感じる。今後更に学力の向上、タブレットの活用、体力の向上、また、健康な体作りを心がけた生活習慣の定着等、今後解決していかなければならない課題もまだまだ多い。学校・家庭・地域連携のもと、地域に根ざした教育活動を今後も継続していくことで、課題解決が図っていけると考える。</p>				